

第三就テハ之ヲ注意アリ生シテん損算減收ト見做ス

二 出作不作ニ依ル輕減ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ム

（一）平常作ヨリ稍々輕微（五分以下）他トシテ不作ハ減免ノ請求ヲ得ルニ至ラズ平常作トハ及當リ五倍率ヲ標準トス

第五條 土地貸借契約ノ紛議等ニ因シテノ事件發生當時ノ現象ニ照シ裁量決定スルモノトス

第六條 紛議調停爲メ經費ヲ要シタル場合アリタル時ハ存負金ニ於テ其ノ割合ヲ定メ決定ス

第七條 小作者ノ納入ハ毎年六月廿日ヲ以テ期日トス但シ特ニ天候其他ノ事由ニ依リ遲延スル場合ハ地主ト協定スル

モノトス

第八條 小作者ノ小作ヲ止ムル場合無断ニテ小作權ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ズ

但シ地主ノ承諾ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ非ズ

附記

一 永年ニ亘リ小作ヲ爲シタル者割合ニ依リ小作地ヲ返還スル場合ハ應分ノ報酬ヲ與フルコト  
二 土地買収ニ依リ他ノ所有權ヲ移讓スル時ハ代地ヲ貸與スルカ又ハ買主ニ於テ小作セシムルコト但シ實際肉體ヲ以テ取扱フ事

附則 減免額審査方法

一 組合設立當初デアリ且純正組合ナルヲ以テ昭和七年度ニ限リ地主ヨリ特ニ耕作者（二合ヲ寄贈シ壹分ヲ組合ニ寄贈スルコト）

二 減免額調停申出アリタル時ハ存負長及存負ニ於テ其ノ實地ヲ調査シ公平ナル見地ノ基ニ減免率ヲ決定ス

三 調停結了シタル時存負長ノ其ノ減免決定額ヲ各関係者ニ通報ス

四 組合員外ノ調停ニ付テハ両者了解ノ下ニ申出アリタル時調停ヲ行フ

五 總テ審査ハ平常作ヲ基準トシテ其ノ率ヲ決定ス

六 審査ノ教故ノ由ヲ一團トシテ平均減免ヲ爲サ各別ニ其ノ減免率ヲ審査決定ス

七 其他細部ノ方法ニ就テハ存負長適宜決定ス

八 調停申出アリタルハ減免（一）申出ハ調停申出簿ニ依ルコト申出簿ニ依ルコト申出簿ハ存負長ヨリ交々折衷ノ記入ヲモテ存負長ニ提出スルコト

九 調停申出ハ審査出張先ニ於テ爲ス事ヲ得ズ必ズ書類ニ依ルコト